

CONTENTS

- 1面: eisu対談特集  
David・セイン × eisu高校部 伊藤奈緒
- 2面: nice冬期講習・eドリル冬期講習  
David・セイン英語ジム冬期体験会  
英語スピーチコンテスト・えいすう文芸大賞・eisu杯
- 3面: eisuが主催する冬期講習・冬期体験会・正月特訓  
オープンスクール
- 4面: 公開模擬試験(県統一テスト・土曜テスト講習)のご案内  
第3回成績優秀者一覧・私立中学入試プレ・私立高校入試プレ



David・セイン

これまで累計350万部の著作を刊行してきた英語関連書籍のベストセラー著者。日本で25年以上の豊富な英語教育経験を持ち、これまで教えてきた日本人生徒数は数万人に及ぶ。日本における英語英会話教育の第一人者。今春より、eisuと共に「David・セイン英語ジム」をスタート。

今後ますます進展していくグローバル化に対応するためには、英語によるコミュニケーション力

大切なのは言うまでもありません。しかし「使える英語」とは、単に「英語で日常会話ができる」ということではないはずです。これからの英語

教育はどうあるべきか? e i s u 高校部で大学受験の英語指導に携わる伊藤奈緒が、日本における英語教育の第一人者であり、e i s u と共に「David・セイン英語ジム」を主宰するDavid・セイン氏と語り合いました。

世界を動かした日本人のメッセージ

2020年のオリンピック招致では、日本の関係者やアスリートたちの英語のプレゼンテーションに感動された方も多かったと思います。ご覧になりましたか?

伊藤 はい。あの「おもてなし」スピーカーが東京招致の決定打になったという報道もありましたね。

セイン では伊藤さん、質問しますね。あのプレゼンテーションが成功した理由は、簡単に言えば何だと思いませんか?

伊藤 そうですね。日本人が、日本の魅力をわかりやすい英語で語り、世界中の人たちがそれに共感し感動した、ということでしょうか。

セイン そうです!伊藤さんの今のお答えに、これからの日本人に求められる大切なことが二つ含まれているんですよ。お気づきですか?

伊藤 そんなに深く考えてお答えしたわけではないのですが(笑)……ぜひお聞きしたいですね。

「ネイティブ感覚」を鍛え、使える英語を身につける

セイン 一つ目は「英語を話す力」です。今、様々な言語を持つ国の人々が、共通の課題や目的のために話し合う機会がどんどん増えています。その時の共通語は、やはり英語です。北米をはじめ、ヨーロッパもアジアもアフリカの人々も、英語を使うことで、お互いの意見を伝えあっている。それが世界の実情です。

伊藤 セインさんが提案されている「David・セイン英語ジム」とは、そうした英語でのコミュニケーション能力を培うものなんですよ。

セイン はい、言語を使いこなすには、相手の言葉のニュアンス・辞書的な意味を越えた、会話中の意味合いを瞬時に理解し、反射的にリアクションする能力が大切です。ネイティブスピーカーが母語を使いこなす時は、この能力を使っています。僕はこれを「ネイティブ感覚」と呼んでいます。「David・セイン英語ジム」はそんな「ネイティブ感覚」を日常的に鍛えるパーソナルトレーニングジムとして開発しました。これは英語のコミュニケーション能力はもろんのこと、英語的思考回路をフル活用することが求められる受験の世界でも、きつと役に立つと思います。

国や文化の壁を越えて

セイン でも、お気づきですよ。世界の人々があのプレゼンテーションに感動したのは、決して単に英語を話せたからじゃないということ。

伊藤 はいわかります。プレゼンテーションの内容が優れていて、それを世界の人に伝えようとする熱意があった。だから、多くの人の心が動いたのでしょう。

David・セイン × eisu高校部 伊藤 奈緒

「グローバル人材」を育てる英語教育とは?

~これからの日本人にとって大切なこと~

セイン 仰る通りです!僕が言いたかった大切なことの二つ目は、自分のことを知ってほしい、異文化の人と気持ちを通わせたい、と思う「熱意」を持つことです。僕は日本に来て30年近くになりますが、日本には世界に向けて発信できることが本当にたくさんあると思っています。他の国にはない日本の良さというものがいっぱいあります。反対に、日本人が今まで知らなかった外国の良さというものもあります。今までは、言葉や文化の違いが壁になって、そうした情報発信や異文化理解が進まなかったが多かったと思います。でもこれからの日本人には、こうした壁を越えようとする「熱意」を持つてほしい。

伊藤 私もそう思います。これからの日本人は、生まれた国も違えば育った文化も違う、そんな人たちの輪の中に入って活動していく必要があります。今までも世界の第一線で働く人たちと何度もお話しをする機会をいただきましたが、そういう人たちに共通して感じるのは、価値観や生まれ育ちの違いを乗り越えて、多様な人たちに自分の信念を伝えようとする想いの強さでした。語学能力は、あくまでそのためのツールに過ぎないんですよ。

セイン そう、英語を話せる力よりも、英語を使ってコミュニケーションしようというモチベーションの方が大切ですね。その気持ちがあれば、自然と英語は使えるようになります。

英語教育の本当の目的とは

伊藤 また、よくあいさつや日常会話ができないと英語を学んでも意味がない、「学校英語」や「受験英語」は「使える英語」じゃないからダメだ、という論調があります。でも、もともと「学校英語」「受験英語」は、大学など学問の場で使うための英語です。それは英語で論文

を読む力を持つことで、学問や技術を広く深く身につけることが目的です。学ぶ範囲を世界全体に広げること、本格的な学力と優れた教養を身につけて、世界の第一線で働ける人間力を身につけること。それが大学受験をがんばり、大学に行く意味なんだ、と日々生徒には指導しています。その意味では、「学校英語」「受験英語」も、いわゆる「使える英語」と同じように大切なことだと思います。

セイン すばらしいお考えですね!そういう意味で英語を使いこなせる人こそ、「グローバル人材」と呼ぶにふさわしいのではないのでしょうか。そしてそんな「グローバル人材」を育てることこそ、英語教育の目的ではないでしょうか。

伊藤 日本の方は、いろいろなことを貪欲に学んで、それを世界に発信してください。世界の第一線で働こうという気持ちを大いに持つてほしいです。その気持ちが強ければ、英語を学ぶモチベーションも得られると思います。英語を自由に使えれば、きつと新しい世界が開けます。そして、そのために「David・セイン英語ジム」を利用してほしいです。

伊藤 セインさんの「David・セイン英語ジム」のプレゼンテーションも、実にお見事ですよ!(笑)



伊藤 奈緒

2000年、自身も中1から高3まで6年間学んだeisuに入社。生徒たちに責任を持って指導ができるよう必死の努力と工夫を重ね、入社3年で人気・実力ともeisu高校部No.1講師に。現在は現役高校生のための予備校として日本トップレベルの運営規模をもつeisu四日市駅東口校で教室長と、eisu group取締役COOを務める。

対談中の「David・セイン英語ジム」とは

David Thayne's Native English Gym

まずは体験しよう!

無料

詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.david-thayne.com/>